

(別紙様式 = 小学校用)

都道府県番号	32
都道府県名	島根県

【 】

*重点をおいた観点にチェックすること

学校名及び規模

学校名	島根県漣摩郡仁摩町立仁摩小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	2	1	1	1	2	2	10	16
児童数	29	44	39	35	34	44	5	230	

研究の概要

(1) 研究主題

豊かな心を持ち、自ら学び考え、主体的に生きる仁摩の子の育成
- 確かな学力の定着をめざして -

(2) 研究主題設定の趣旨

これまで本校では、平成14年度に子どもたちの基礎・基本となる学力を高めるために、「読み・書き・計算」を機軸としながら、子どもたちの基礎学力の確実な定着を図る効果的な算数科の学習指導の在り方を求めて実践してきた。また一方で、平成13年度に県地域ふれあい学習推進校(福祉教育)に指定され、今年度の発表大会にむけて、総合的な学習(生活科)を中心として福祉教育の実践研究を進めてきた。

こうした経緯から、今年度は、児童の基礎・基本となる学力の確実な定着を図ると共に、それを基にし、人との関わりの中でも、自ら考え、主体的に「生きる力」を育む、豊かな心を持った人間の育成をめざした(いわば「確かな学力」と「心の教育」の両面の育成をめざす)研究主題を設定し、研究を進めていくこととした。

また、生きる力の知の側面から見た「確かな学力」の定着を図るために、きめ細かな指導法の一層の工夫を重ねると共に、確かな学力を本校の実態から「育てたい心と力」として子どもの姿に具体化させ、個々の子どもに即した実践的で地道な研究活動を進めていくこととした。

研究の内容

(1) 研究推進体制の工夫

理解や学力に個人差が目立つ算数科において、児童一人一人の実態を把握し、個に応じた指導の充実を図っていくためには、担任と少人数担当教諭の2人または3人体制の授業を進めていくことが、より効果的である。本校では、全学年算数科で、学級の実態や学習内容を考慮し、少人数指導(等数別、課題別、方法別、習熟度別グループ)やT・T指導を組み合わせ、指導体制を工夫して授業実践を行った。

習熟度別指導においては、単元のどの指導過程で取り入れるか計画を立て、理解度に応じた基礎、基本、発展コースの2~3グループ(グループ名は自由)に分けて実施した。グループ編成は、児童の自己選択を基本とした。新しい単元に入る前には、児童にプレテスト、アンケート等を実施し、児童一人一人の実態を把握すると共に児童のコース選択のアドバイスに活用した。3コースの場合の学習の重点は次の通りである。

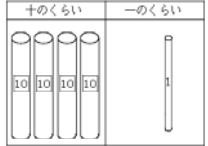
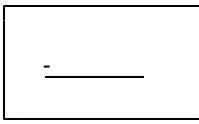
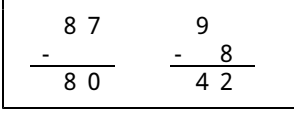
コース (グループ)	基礎学習コース (Aグループ)	基本学習コース (Bグループ)	発展学習コース (Cグループ)
学習の重点	基礎的な内容を指導(補充的指導) ・既習内容の復習 ・具体物の活用 ・操作性重視	基本的な内容を重点的に指導 ・基礎的・基本的事項の習得と充実 ・類似問題学習	基本的な内容指導(発展的指導) ・発展的内容学習 ・数学的思考重視
	わからない わかる・できる・楽しい もっとやりたい		

(2) 研究の実際

算数科における個に応じた指導のための教材開発について

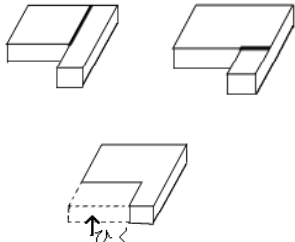
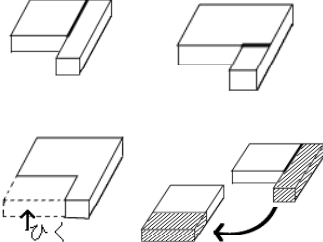
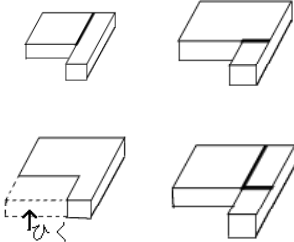
習熟度別の3コースで、個に応じた指導を工夫して実践すると共に、本校の研究のめあてである「算数的活動を通して、自らの意見を発表し意欲を向上させる教材の開発」「子どもたち同士の学び合うような指導法」を探っていった。

実践例1 2年「たし算とひき算のひっ算(1)」(総時数11時間、本時11時)

	基礎学習コース (ホップコース)	基本学習コース (ステップコース)	発展学習コース (ジャンプコース)
目標	2位数のひき算の筆算ができる。	2位数のひき算の筆算が確実にできる。	2位数のひき算の筆算が正しくできる。
指導の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・具体物(位取り板、数え棒)を操作し、ひき算の筆算の仕方を復習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り下がりのないひき算、繰り下がりのあるひき算の計算問題を作り、解く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・虫食い算を解いて、解き方を説明する。 ・自分で虫食い算を作って解く。 
児童の様子	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までは、繰り下がりにつまづく児童が多かったが、位取り板や10の束の数え棒を使って筆算のやり方を復習すると、まちがいがなくなり、意欲的に取り組むことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で の中に数字を入れて問題作りをする、という時に繰り下がりになるのか、ならないのかがわかり筆算が確実にできるようになった。自分達の問題を解き合うことで意欲が高まった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・虫食い算を解き、解き方を説明し合うことによって、繰り下がりや筆算の仕方を確かなものにしていった。自分で虫食い算を作り解くことで、より意欲的に取り組むことができた。

それぞれのコースの児童の実態に合わせた教材を用いた指導をしたことで、どのコースの児童も意欲を持って取り組むことができた。特にホップコースの児童に、十の束が必要に応じて一つずつに分けることができる教材を用いたことは効果的であった。

実践例2 6年「体積」(総時間数10時間、本時6時)

	基礎学習コース (らんらんコース)	基本学習コース (りんりんコース)	発展学習コース (るるんコース)
目標	L形の立体は、2つの立体に分けて体積を求めることができる。求積することができる。	L形の立体は、2つの立体に分けたり、大きい立体から引いたりすることで求められることができる。求積することができる。	L形の立体の求積の方法を多様に考え、求めることができる。
指導の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・直方体と立方体の求積方法を復習する。 ・3人1グループに分け、各グループにL形模型を渡し、求積方法を話し合う。 ・分けることができない児童にはL形の面積の求め方をヒントにさせる。 ・見取り図や模型に辺の長さを書き込み、3辺の長さを確認する。 ・求積方法を分解可能なL形模型や見取り図を使って発表させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・直方体と立方体の求積方法を復習する。 ・3人1グループに分け、各グループにL形模型を渡し求積方法を話し合う。 ・自力解決が難しいグループへはL形の面積の求め方をヒントにさせる。 ・L形の立体模型や見取り図を使って発表させる。 ・類似練習問題(形の変わったL形、向きを変えたL形)を解く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自力解決させる。難しい場合は、L形の面積の求め方をヒントにさせる。 ・グループで話し合った後発表し合う。 ・立体模型や見取り図を使って発表させる。 ・練習発展問題(形の変わったL形、U形)を解く。
発表した求積方法			

コースに応じて教師手作りの立体模型(分解できる物、できない物)を個々のグループに用意したことで、具体物进行操作しながらの自力解決や友達相互での話し合いによる解決につながったと考える。

(3) 研究の成果と課題

成果

本校の習熟度別学習において、発展学習コースや基礎学習コース分けをし、コースの児童に応じた教材を用意したことは、個々の児童の理解や数学的な考え方を高めるために効果的であった。また、グループでの相談や発表の場面でも操作しやすい具体物を用いたので、説明や理解の助けとなった。

具体例として、前述した6年の授業後の「振り返りカード」に、「初めての図形でちょっと困ったけど、直方体、立方体に分けてやると楽にできた。」(らんらんコース)「実際に箱を使ってやったので、わかりやすく勉強できた。色々な求め方をして、やりやすいやり方を探せた。」(りんりんコース)「友達と協力して解くのは楽しかった。またやりたい。」(るるんコース)という感想がみられた。また、児童の自己評価でも「よくわかったと答えた児童が55%、だいたいわかったと答えた児童が41%」という結果であり、個々に応じた教材として適していた。

課題

発展的な内容を単元構成のどの場面に位置づけ、どのような学習形態で行っていくのが効果的か、そのためには、どのような教具や資料が必要かなど、指導者同士が協力し合って一つ一つ教材開発していくことが今後の課題である。

(4) 研究成果の普及の方策

- ・地域の学校へ、習熟度別指導の研究授業を公開
- ・島根県福祉教育研究大会で授業公開及び研究発表
- ・授業公開日での少人数授業公開(学校だより、学級だより等でも情報を公開)

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- | | | | | |
|----------------------|--|--|--|-----------------------------|
| 【新規校・継続校】 | <input checked="" type="checkbox"/> 15年度からの新規校 | <input type="checkbox"/> 14年度からの継続校 | | |
| 【学校規模】 | <input type="checkbox"/> 6学級以下 | <input checked="" type="checkbox"/> 7～12学級 | | |
| | <input type="checkbox"/> 13～18学級 | <input type="checkbox"/> 19～24学級 | | |
| | <input type="checkbox"/> 25学級以上 | | | |
| 【指導体制】 | <input checked="" type="checkbox"/> 少人数指導 | <input checked="" type="checkbox"/> T・Tによる指導 | | |
| | <input type="checkbox"/> 一部教科担任制 | <input type="checkbox"/> その他 | | |
| 【研究教科】 | <input checked="" type="checkbox"/> 国語 | <input type="checkbox"/> 社会 | <input checked="" type="checkbox"/> 算数 | <input type="checkbox"/> 理科 |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 生活 | <input type="checkbox"/> 音楽 | <input type="checkbox"/> 図画工作 | <input type="checkbox"/> 家庭 |
| | <input type="checkbox"/> 体育 | <input checked="" type="checkbox"/> その他 | | |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 | <input checked="" type="checkbox"/> 有 | <input type="checkbox"/> 無 | | |

【特色ある取組事例としての紹介したいポイント(都道府県教育委員会記入)】
算数科において、習熟度別の3つのコースごとに教材を開発し、個々の児童の理解や数学的な考え方を高めるのに効果があった。た。